参考資料3

交流セミナーの開催内容に関する意見照会結果について

委員意見	意見に対する県の考え方
解説内容について（特に伝えてほしいこと）	
【聴覚に障害のある方への配慮、コミュニケーション手段】 ○ ろう(あ)者・難聴者(加齢性難聴者含む)・中途失聴者のコミュニケーション手段の違いや、抑えるべきポイントなどを、講師が的確に伝えてくださると期待している。 ○ 身体障害者手帳を持っている聴覚障害者だけでなく、高齢による難聴など、見た目に分からなくても聞こえの不自由を感じている人は多い。音声でコミュニケーションが行われる場では、文字表示や視覚的に伝わる方法を併用するのが当たり前という意識を一人ひとりが持つことが、個人への配慮や環境整備への働きかけにつながる。	○ いただいた御意見を参考に障害のある方への配慮やコミュニケーション手段をわかりやすく解説できるよう、受託事業者と台本作成の調整を行ってまいります。また、専門家による解説にも反映していけるよう検討いたします。
【視覚に障害のある方への配慮、コミュニケーション手段】 ○ 視覚障害の場合、一般の方にお願いするのは、いっしょに歩いてもらう手引きが多いかと思う。手引きの仕方、別れる時にどちらを向いているのか。また、全盲と弱視では違うことも伝えてもらえたらと思う。	
【発達障害がある方への配慮、コミュニケーション手段】 ○ 会話ができるので内容を理解していると相手に誤解されることも多いが実際には理解できてないことの方が多い。日頃からなるべくゆっくり分かりやすい言葉で短く話すように心掛け、ちょっと感情的になってる時は落ち着くまで待ってから話すようにしてほしい。 本人は困っているとは言えないので、ヘルプマーク着けてて、もじもじしていたら、優しく声かけしてほしい。これが一番初めの入り口かと思う。 ○ 発達障害は、日常のコミュニケーションにあまり問題のない人から、生涯、意味のある言葉を発しない人まで、障害特性の幅が広いのが特徴。問題なく話すように見える人でも、本音と建前がわからないことや冗談が通じない人も多くいる。 聴覚より視覚優位の人が多く、普通に話せるように見えても、話し言葉より文字・文章の方がわかりやすい人、また単語や二語文程度しか話せない人には絵カードや写真・実物等を見せることで理解できるケースもある。 聴覚過敏のある人も多く、できれば静かな場所でマンツーマンで話していただくと理解しやすい。	
【盲ろう者への配慮、コミュニケーション手段】 ○ ＜盲ろう者への配慮＞ ・盲ろう者と話を始めるときに、盲ろう者の肩を軽く、ぽんぽんとたたいてから、盲ろう者の手をとって、手話、指文字、手のひら書きなどで、盲ろう者に触ってもらいながら、所属、役職名、自分の名前を名乗ってから挨話、話の内容を伝える。 ・移動介助をするときに、上り階段が近づいてきたら、「ここから、上り階段です。」と伝える。 （他に、下り階段、エスカレーター、エレベーター、幅〇センチの溝など） ・テレビなどの字幕や配布された紙などの内容の情報を伝える。 ＜コミュニケーション手段＞ ・触手話のコミュニケーション 手話のできる盲ろう者には、手話、指文字で表現し、その表現を触ってもらい伝える。 ・手のひら書きのコミュニケーション 盲ろう者の左手のひらに、人差し指で、ゆっくり、はっきりと文字を書いて伝える。 話の内容がわかったら、手を軽くたたいて合図する	
【神経や筋肉等に障害のある方（ALSや肢体不自由者）への配慮、コミュニケーション手段】 ○ ALSは、身体の動きが日に日に制限されてくる疾患。声が発せなくなることはもちろん、PCやボディーランゲージもできずコミュニケーションが取れなくなるが、最後まで眼球の動きは制限されないと言われてきた。最近では、約2割の患者がTLS「閉じ込め症候群」の状況となってしまう。コミュニケーションが取れなくなる生き方は想像を絶する、厳しい我慢の世界。 いつまでもYES、NOだけではないコミュニケーションが取れることを目標にして、ALS協会の患者家族は協力しながら生きてゆきます。	
その他（解説内容以外に関する意見）	
○ 聴覚障害のある障害当事者の方の動画出演、または登壇をお願いしたい。	○ 聴覚障害のある方の動画出演を行い、その中で手話等のコミュニケーション手段の紹介を行いたいと考えております。
○ YouTube配信の場合の手話通訳は別画面またはワイプ挿入とし、見やすい方法でお願いしたい。 YouTube配信の場合の字幕挿入をお願いしたい。 会場での手話通訳についても画面表示をお願いしたい（遠くの席からでも見やすいように）。	○ YouTubeでの動画公開を行うにあたり、昨年度同様に手話通訳のワイプ挿入及び字幕挿入を行う予定です。それぞれについて、見えやすい方法を工夫して動画の作成を行ってまいります。 会場での手話通訳のスクリーン画面への表示について、技術的に可能かどうか受託事業者と調整してまいります。
○ 解説内容を音声だけでも理解できるようにしてほしい。また、無音状態が続かないように、「〇〇」を準備している、「登壇者が交代している」などの解説を入れてほしい。	○ 開催内容を分かりやすくお伝えできるような音声アナウンスを工夫できるように受託事業者と協議してまいります。 また、後日公開する動画についても音声ガイドを取り入れてまいります。
○ 要約筆記の表示用スクリーンとして大型スクリーンを会場中央にセットしていただけるなら、どこの位置からもスクリーンが見やすくなるはず。席は自主的に選択できるようにし、情報保障席を、会場前に設置する必要はないと考える。あえて情報保障席を設置するなら、ヒアリングループを敷設して、そこを「ヒアリングループ席」と表示するのがベターだと思う。そして、障害福祉課で管理されているループ専用受信機を、受付で難聴の方に貸し出して有効活用してはどうか。その場合、専用受信機の使い方を受付でレクチャーする必要があり、事前に、情報保障として手話・パソコン要約筆記・ループが用意されている旨の周知も必要になる。全国的には、そのような配慮がなされている。 なお、受付で、ループのレクチャーのお手伝いはできる。 折角の機会なので、多くの聴覚障害者に、リアル会場へ参加していただけるとよい。昨年度は、聴覚障害者席ががら空きだった。	○ どこの席からもある程度要約筆記が見えやすくなるようなスクリーンを会場に設置する予定です。情報保障席は撤廃という形ではなく会場の前方に用意し、必要に応じて来場者にどこに座るのか自由に選択していただくようにしたいと考えております。 また、ヒアリングループによる情報保障の提供ができるかどうかについて受託事業者と調整を行ってまいります。
○ 申し込み方法として、ウェブ以外もあると良いと思う。	○ 申込方法については、FAXによる申込方法を追加するように受託事業者と調整を行っております。
○ 質問コーナーなどで、参加者を巻き込むように、話を聞くだけではなく、参加できる時間が他にもつくれると良いと思う。	○ 今年度の参加者を巻き込むメニューは質問コーナーを予定しております。今年度は、発達障害をメインに取り上げることもあり、発達障害の方とのコミュニケーション手段について、参加者と一緒に考える機会が作れるように努めてまいります。